中津市立　和田小学校

学力向上プランの概要

【授業改善】

《　授業改善テーマ　》

児童が主体的に考え，話し合いが活性化する授業づくり

《　授業改善の重点　》

学習の基盤となる力と問題発見・解決能力の育成

《　取組内容　》

① 問題解決に向け思考スキルを用いながら，考えを伝え合う・深め合う授業を行う

② 学習の基盤となる力の育成

【家庭・地域との協働】

（家庭）・家庭読書の推進　・家庭学習の手引きを活用した学習習慣作り　・ゲームスマホの約束

（地域）・学習支援協力　・学校公開への参加

効果のある取組事例

1．組織的な授業改善

〇つけたい力を明確にした新大分スタンダードの徹底

〇和田スタイルの授業

・自分の考えを持つ場の設定　・ペア、グループ学習の取り入れ

・全体交流の場の設定

・課題の設定の工夫　「選択性のある課題」「答えが複数ある課題」

・友達の発言に対して自分の考えを言わせる場の設定

・課題の見通しを持たせる声かけ　・全員発表の機会の設定

・言語活動の推進

2．学習したことが定着する指導方法の工夫

〇和田システム

・スキルタイム（その日の学習内容を宿題に出し，翌日のうちに必ずやり直しをさせる）

・マイスタディタイム（単元末に習熟の程度に応じたまとめプリント学習）

・アドバイスタイム（個のつまずきに対応する放課後や隙間時間の補充学習）

〇学習の約束の確認

〇週末国語活用力プリント、理科復習プリント

3．家庭学習の取組

・家庭学習強化週間　「ふりかえりカード」による家庭との連携

・ゲーム・スマホの約束の実施

和田小学校学習規律(きまり)・学習スタイル

子ども達が、何年生になっても、戸惑わずに、落ち着いて学べるように

1．学習規律（きまり）について

【教師】

〇１時間の内容をはっきりさせる。
〇板書をきちんとする。（視覚優位の子どもへの支援・板書の構造化）
〇チャイムで授業をスタート。（スタートできないときの対応をはっきりさせておく）
〇チャイムで授業を終わる。（終わらないときは、どこまでするのかを明確にする）

【子ども】

〇８時２０分には答え合わせ・読書が始められるように準備をしておく（事前準備の意識）
〇次時の学習の用意をして休み時間に入る。（５分休みは準備の時間）
〇チャイムが鳴ったときには着席している。
〇ランドセルには、飾りをつけない。
〇筆箱には、飾りをつけない。（学習に集中する環境）
〇筆箱には、缶ペンは不可。低学年は箱形。
〇筆箱には、赤鉛筆（青鉛筆）・鉛筆４.５本、定規、消しゴム、ネームペン
・・・ボールペンなどいらない物を持ってこない・・・
＊ボールペンを使うときは、理由をはっきりさせ、原則は赤青鉛筆であることをはっきりさせておく。
＊高学年のみ、赤ペン（キャップ式）は使用可。
＊定規類、消しゴムは、キャラクター物でなく、「見やすい・よく消える」ものであることを常に知らせる。
＊筆算などの線は、定規で引く。
〇小物袋に必要な物は入れる。（ハサミ・のり・三角定規・コンパス・分度器など）
〇挙手の手は、だまって挙げる。
〇授業中にトイレ・鉛筆削りに行かない。（休み時間に行く徹底）
〇人の話の途中で話さない。(手遊びをしない)
〇教室のはしにいる友だちにまで届くような声で話す。（他者意識をもつ）

2．学習スタイルについて

（1）聴き合う関係つくり

教師は？	子どもは？
聴く 〇一人ひとりの思いを丸ごと受けとめる聴き方→良い意見・困った意見という聞き方ではない。どの発言も素晴らしいと信頼し期待する。 〇発言の受けとめかた（つながりを聴く） ★その発言がテキストのどの言葉に触発されたものかを認識して聴く ★その発言が他の子のどの発言に触発されたものなのかを認識して聴く ★その発言がその子自身のその前の発言とどうつながっているのかを認識して聴く 話す 〇「間」をとる。(すぐに子どもの発言に返さない。) 〇声のトーンを下げて、ゆったりと話す。 〇必要な言葉に限定し、言葉を選んで話しかける。 位置 〇発言する子の斜め横で、耳を澄ます（離れていても自分の分身をその位置に置くようにイメージする） 〇子どもと同じ目の高さで聴く	ケアの関わりを築く ★わからなくなったり、つまづいた時「ねえ、ここどうするの。」とたずねること ★仲間にたずねられたら、必ず誠意を持って仲間の要請に応えること（自分が困れば友だちの助けを借り、最後まで責任を持つ） 学びをダイアローグ型（対話）の言語によって進める ★相手意識を持って話す。語り言葉で。 ★「うん」「なるほど」とあいづちを打ったり、うなずいたりする。 ★顔をあげて、発言者を見て聴く アシスト発言をする (わかろうとして、受け入れようとして聴く) ★発表に困っている子の続きを受け取って「こういうこと？」と返す ★発表に自信のない子に、「聞きたい、伝えて」と言う ★グループの中での発言を取り上げ、自分とつないで話す（間接的に紹介）

○子どもの中に入ろうとする居方ではなく、教室の子ども全員を自分の身体イメージの中に入れ込む居方で立つ	聴くことに集中できるように ★机上は今必要でないものはしまう ★学習内容に応じて机配置を工夫する

○ペア・グループ学習を入れる時

◇ペア・グループ学習　・・・個が基本であるが、個の学びを充実するために他者の考えと交流する場

・個人作業の協同化の場面→→自分の考えを持つとき
・疑問や課題の提示の場面→→「どういうことだろう」と疑問や課題が浮かび上がったとき
・解法の確認の場面　　→→他の考えを納得するとき
・学びの確認の場面　　→→学習した大事なことを確認するとき（まとめ）

（２）「０時」→「学習過程」→「マイスタディタイム」→「評価テスト」の徹底

○　０時

単元に入る前に児童のレディネスチェックし、学び直し・分かり直しをする。

・前学年・前単元で学習した関連する内容のミニテスト
・基本はグループ学習

○ マイスタディータイム

単元の終わりに定着度のチェックをし、学び直し・分かり直しをする。

・バッチリコース … 教科書レベルの学習の振り返りをする問題（基礎・基本）
・チャレンジコース…教科書レベルの学習を発展させた問題
　　定着を図る練習問題
・基本はグループ学習

（３）宿題答え合わせ（８：２０～８：４０→終わり次第、読書タイムに入る）
＊やり直しは、当日中に行う。

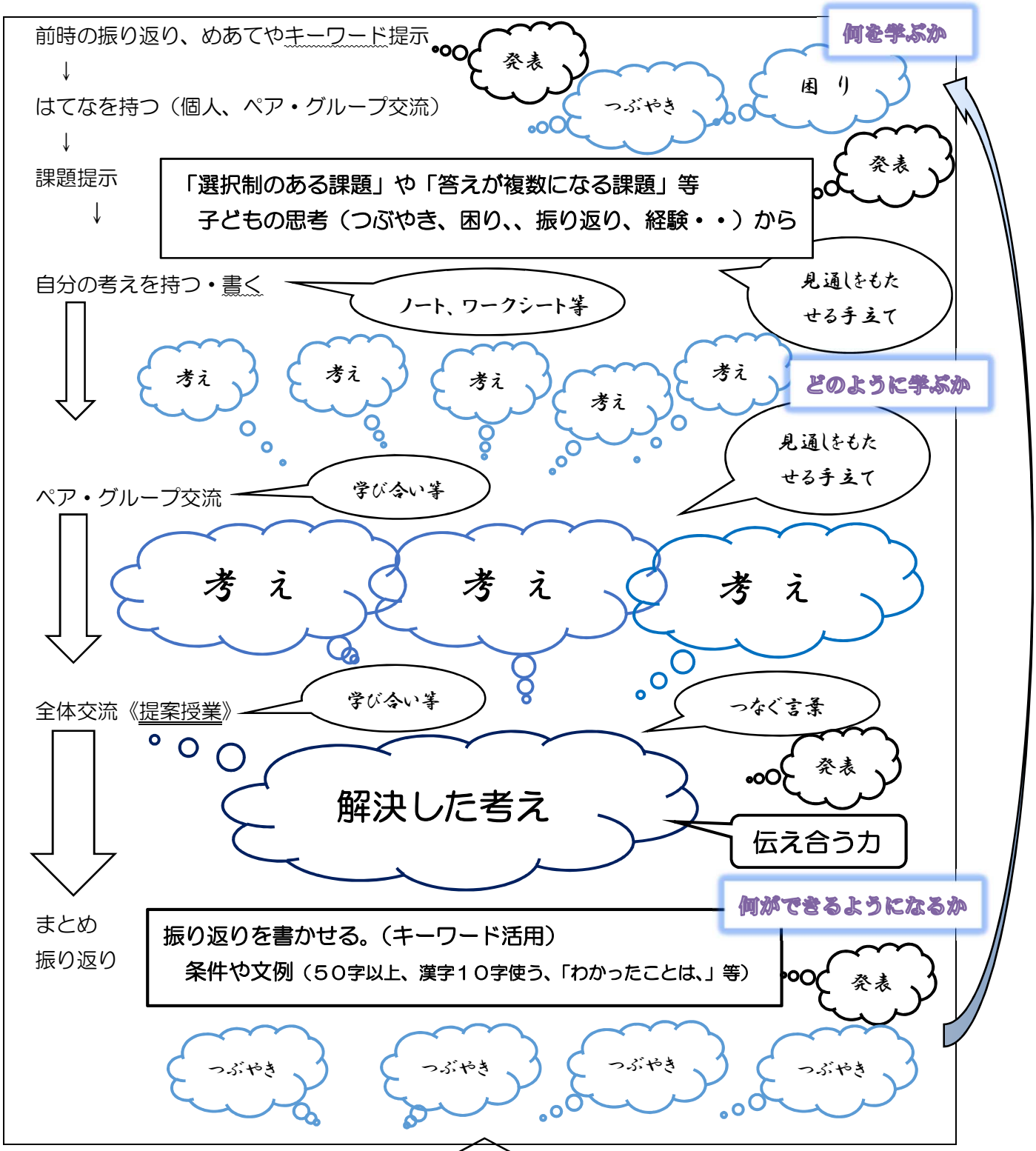
○算数の復習が中心の物（算数プリント・算数ドリル・教科書問題等）
（算数プリントの作成 T1　答え合わせやり直しの指導 T2）　＊別紙提案

○国語の復習が中心の物（漢字ドリル・漢字練習・国語プリント等）
・毎週金曜日は、ことば・文法・読解等のプリント（３～６年）
・その他の日は、漢字中心で、工夫する。

○その他（音読・作文・自学・理科・社会・他教科　等）
☆高学年は、中学校での家庭学習を見越して、自学ノートへの取り組み方を段階を追って経験させ、**自学力をつける。**

和田スタイル》（授業の流れ）

考えを伝え合うことを大切にした授業づくり
～考えを伝えあえる力の育成と授業のポイントがわかる授業～



集団づくり

聴き合う仲間づくり・居場所づくり